

8-4-15 交通基盤技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

交通基盤技術委員会を奇数月に6回(7月、9月、11月、1月、3月、5月)開催した。

委員会内容は、委員会・専門委員会・WGの月次報告、技術部会・常任理事会・統括技術委員会の審議・指示事項の周知・対応等について実施した。

(2) 未来塾検討テーマへの対応

a) 計画系業務のスケジュール管理表の運用
計画系業務のスケジュール管理表が運用されており、その実態について、意見収集等アンケートへの対応を実施した。

b) プロポーザル拡大へ向けた対応

現状のプロポーザルと総合評価の適用判断が発注者により異なる現状や課題を整理し、わかりやすく運用しやすい判断基準作成へ向けて提案を実施。

c) 施工条件明示チェックシートの運用

設計者の責任範囲の明確化と、設計条件・設計思想を施工者に確実に伝達するために、制度化に向けた対応を継続して、「施工条件明示チェックシート」の運用に向けた関係者間での協議を進めている。

d) 仮設設計・施工計画課題問題への対応

仮設設計の問題点(任意仮設と指定仮設に関わる)について、事例の収集を行い、その原因の究明と、建コン協として解決できる提案を模索し資料として取りまとめている。

(3) 道の駅BCP策定マニュアル(案)委員派遣

道の駅の新たなチャレンジとして、新「防災道の駅」を全国に整備することが国の方針となり、地域防災計画に位置付けられた道の駅約500駅について2025年までにBCPを策定する。BCP策定支援を行うため、マニュアルを早急に策定する委員を数名推薦した。

(4) 共通仕様書、標準歩掛の改訂要望の提出

現行の共通仕様書及び標準歩掛について国

交省技術調査課に改訂要望を提出する資料(共通仕様書、標準歩掛のそれぞれについて)の作成と改訂の優先順位を提示した。

(5) 国総研共同研究への参加

a) 道路橋の性能評価技術に関する共同研究
実施する研究員は、道路構造物専門委員会から人選し、性能評価を求められる部分の抽出、特殊な橋梁形式の事例について収集した。

b) 既設道路橋群の維持管理計画の継続的改善に関する共同研究

実施する研究員は、道路構造物専門委員会・近畿支部から人選し、インフラアセットマネジメント体系の運用に必要なデータ整備、道路性能評価指標、将来推計(LCC)の標準化、法定点検における性能検証のためのロジックツリーの検討、法定点検の解釈基準の作成等を開始した。

(6) 「令和元年台風19号豪雨災害における建設コンサルタントの活動の記録」作成協力

大規模災害となった台風19号における災害対応として建設コンサルタントが果たした役割や活動を記録として取り纏めるため、道路・橋梁・鉄道関係の災害に対して、活動記録を作成する。

2. 次年度の活動について

令和2年度も交通基盤技術委員会として、本年度事業を引き続き実施する。

(1) 事業計画に基づく委員会の定例的活動

(2) 当委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に統括技術委員会の各WGで検討する課題への対応

(3) 技術部会からの指示事項の検討

(4) 各専門委員会から要望の検討、上位機関への上程

(5) RCCM 自主学習・教材の作成・更新

(6) 国交省等との連携・調査・検討への対応

(7) 土研、国総研との技術交流

(8) 白書・対外活動への支援等

(交通基盤技術委員会委員長 鷲見 英吾)